第３次防府市教育振興基本計画について

１．策定の趣旨

令和３年３月に計画期間を５年間とする「第２次防府市教育振興基本計画」を策定し、本市の教育行政を総合的・計画的に推進してきた。

その間も教育を取り巻く環境はデジタル化やグローバル化の進展など急速に変化してきている。そのため、これまで取り組んできた**第２次計画をベース**としつつも、**現計画の成果と課題**を踏まえるとともに、**国や県の計画**を参酌し、今後の本市が取り組むべき教育施策の新たな指針となる「第３次防府市教育振興基本計画」を策定する。

２．基本計画の基本的な考え方

第２次計画をベースとしながらも、現状等を踏まえて、以下のとおり基本目標等を変更する。

	第２次計画（現計画）		第３次計画（新計画）
めざす **まち**の姿	教育のまち日本一		教育のまち日本一 **～多様な学びで幸せに～**
めざす **人**の姿	・学びを楽しみ、変化に立ち向かう人 **・強さと優しさを備え、他者と協働して未来社会を創造していく人** ・ふるさとを愛し、未来に**つなぐ人**		・学びを楽しみ、変化に立ち向かう人 **・多様性を尊重し、他者と豊かにかかわる人** ・ふるさとを愛し、未来を**創る人**
基本目標	21 **世紀を**たくましく生き抜く人材の育成		**未来社会を見据え、**たくましく生き抜く人材の育成

【めざすまちの姿】

防府は豊かな自然と文化・歴史に恵まれたすばらしいまちで、保護者はもとより、防府に住むすべての人が、教育を大切にしているまちである。

このような風土から、「教育のまち日本一」を第１次計画から掲げ、**第３次計画でも継続**。

人口減少、少子高齢化が進む中、「多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるための教育」が**今後の社会全体の安定と発展につながる重要なもの**となるため、サブタイトルとして「多様な学びで幸せに」を追加。

【めざす人の姿】

・「学びを楽しみ、変化に立ち向かう人」は**そのまま継続**。

・現計画の「強さと優しさを備え、他者と協働して未来社会を創造していく人」における**基本的な考え方に大きく変わりはない**が、今後の**持続可能な社会を構築**していくにあたって、**一人ひとりの個性や特性を認め、尊重**しながら、積極的にか

かわり、お互いに助け合うことが**特に重要**なものとなるため、**「多様性を尊重し、他者と豊かにかかわる人」へ変更**。

・現計画の「ふるさとを愛し、未来につなぐ人」においても基本的な考え方に大きな変わりはないが、少子高齢化が課題となっている中、持続可能な社会を構築していくにあたって、**「つなぐ人」を発展させ「創る人」へ変更**。

【基本目標】

現代だけでなく、さらにその先の未来社会もたくましく生き抜く力を育むため、現計画の**「21 世紀を」を「未来社会を見据え、」に変更**。

３．第２次計画の大きな成果と課題

第２次計画を推進して**得られた成果**と、現状における**課題の分析**を行い、分野ごとの施策をより効果的に推進していくための取組を実施する。

【成果】多様な学びを支える環境の充実。地域との連携強化の推進。

○全国学力・学習状況調査において「コンピュータなどのＩCT 機器をどの程度使用しましたか」という設問に対し、「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合が大きく向上している（小学生：10.2%→47.2%、中学生：8.3%→68.9%）。また、同調査において「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」という設問に対し、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合も大きく向上している。（小学生 59.6%→82.3%、中学校 43.9%→77.7%）

○こどもアンケートにおいても、「学校の授業でどのような授業が好きですか」という設問に対し、「タブレットを使って勉強する授業」や「グループでの話し合い、体験学習活動」と回答した児童生徒が多くみられた。

○これらのことから、全小・中学校の児童生徒に教育用タブレット端末を配備し、多様な授業スタイルを実施する等、**多様な学びを支える環境の充実**を図るとともに、「学校を核とした地域づくり」「地域とともにある学校づくり」をキーワードとした**地域活動への参加、地域等との連携強化**に取組んできたことが、高い成果として現れたと考えられる。

【課題】学力、学習意欲の格差

○全国学力・学習状況調査における本市の総合平均正答率は、小・中学校ともに、過去３年間で全国平均を下回っている。加えて、平日一日当たりの勉強時間について、２時間以上勉強する児童生徒の割合も全国平均を下回っている状況である。

○こどもアンケートでは、「勉強が好きですか」の設問に対し、「好き・どちらかといえば好き」と回答した割合は、小学校では約６割あるものの、中学校では約３割に留まった。

○これらのことから、今後は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るとともに、児童生徒一人ひとりに対する「学び直し」や「補充学習」の実施など、学力水準を向上させるためのさらなる取組が必要である。

⇒ 分野・施策ごとの現状・課題分析、具体的な取組については、第４章に明記。